

## 1. 議事日程

〔令和3年第1回安芸高田市議会3月定例会第15日目〕

令和3年3月10日  
午前10時開会  
於 安芸高田市議場

- 日程第1 会議録署名議員の指名  
日程第2 同意第1号 安芸高田市副市長の選任の同意について  
日程第3 議案第28号 令和2年度安芸高田市一般会計補正予算（第12号）  
日程第4 議案第29号 令和3年度安芸高田市一般会計補正予算（第1号）

## 2. 出席議員は次のとおりである。（16名）

1番	南澤克彦	2番	田邊介三
3番	山本数博	4番	武岡隆文
5番	新田和明	6番	芦田宏治
7番	山根温子	8番	先川和幸
9番	児玉史則	10番	大下正幸
11番	山本優	12番	熊高昌三
13番	秋田雅朝	14番	金行哲昭
15番	石飛慶久	16番	宍戸邦夫

## 3. 欠席議員は次のとおりである（なし）

## 4. 会議録署名議員

11番	山本優	12番	熊高昌三
-----	-----	-----	------

## 5. 地方自治法第121条により説明のため出席した者の職氏名（13名）

市長	石丸伸二	副市長	米村公男
教育長	永井初男	総務部長	西岡保典
企画振興部長	猪掛公詩	市民部長	宮本智雄
福祉保健部長兼福祉事務所長	大田雄司	産業振興部長	重永充浩
産業振興部特命担当部長	行森俊莊	建設部長兼公営企業部長	平野良生
消防長	土井実貴男	総務課長	内藤道也
財政課長	高藤誠		

6. 職務のため議場に参加した事務局の職氏名（4名）

事務局 長	森岡 雅 昭	事務局 次 長	佐々木 浩 人
総務 係 長	國岡 浩 祐	主任 主 事	岡 憲 一



午前10時00分 開議

- 宍戸議長 定刻になりました。  
ただいまの出席議員は16名であります。  
定足数に達しておりますので、直ちに本日の会議を開きます。  
本日の議事日程は、あらかじめお手元に配付したとおりであります。  
日程に入るに先立ち、本日の会議の運営について、過日、議会運営委員会を開き、御協議いただいておりますので、その結果について、議会運営委員長の報告を求めます。  
熊高議会運営委員長。
- 熊高議会運営委員長 皆さん、おはようございます。  
本日の会議の運営につきまして、去る3月2日に議会運営委員会を開き、次のとおり決定しましたので、報告をいたします。  
追加案件となる同意第1号は、提案理由説明の後、質疑、討論を行い、採決することといたしました。  
次に、議案第28号及び29号の2件は、提案理由説明の後、質疑を行い、予算決算常任委員会に付託することといたしました。  
以上で報告を終わります。
- 宍戸議長 以上で報告を終わります。



日程第1 会議録署名議員の指名

- 宍戸議長 日程第1、会議録署名議員の指名を行います。  
会議録署名議員は、会議規則第86条の規定により、議長において11番山本 優議員、及び12番 熊高議員を指名いたします。



日程第2 同意第1号 安芸高田市副市長の選任の同意について

- 宍戸議長 日程第2、同意第1号「安芸高田市副市長の選任の同意について」の件を議題といたします。  
議案の朗読を省略し、提出者から提案理由の説明を求めます。  
石丸市長。
- 石丸市長 同意第1号の提案理由を御説明します。  
本件は、四登夏希さんを安芸高田市副市長として選任することについて、地方自治法第162条の規定に基づき、議会の同意を求めます。  
まず、背景を少し御説明します。  
今、取り組もうとしている副市長の2人体制というのは、昨年の6月26日、前の議会のとときに可決されたものです。このまちにとって、改革が必要だ、その意思に基づき、当時の議会が決められています。この中にも多くいらっしゃいますけれども、改めてその御英断に、心よりお礼を申し上げます。  
そして、それがようやく実現できることを、ここに、市民の皆様に御報告します。

改革の必要性というのは、明白です。先日の一般質問でも話に出ましたが、このまちの経常収支比率というものは、98.2%まで上がってきています。令和元年度の数字です。

98%、まだぴんとこないという方もいらっしゃるかもしれませんが、これ、100を超えるとどうなるか。続きません。もう借金生活に入るんですね。これまでの行政サービス、維持できなくなります。

例えば道路をつくったり、獣害対策をしたり、それこそ農業の新しい取組、箱物なんか、どんどんなくさざるを得ません。例えば図書館とか。その背景というのは、扶助費、社会保障費の増大です。これの原因は、皆様御承知のとおり、高齢化です。

このまちの高齢化率、既に40%近くにまでなっています。全国の平均と比べると、40年、悪いほうで先を走ってしまっています。でも、このまちの状況、これで終わらないんですね。高齢化、まだまだ進みます。社会保障費、膨らみます。ですので、普通にやっていると、100%を超えるのは確実です。先日の答弁で、目標93%だと申し上げました。かなり野心的な数字です。普通にやっていると100を超えます。少々の経費削減では、どうにもならないところまでできています。もう後がないのが、このまち、安芸高田市の現状です。一刻を争う、その意味では、今回の選任は、このまちの未来にとって、極めて重要な人事であると言えます。

その、追い込まれたこのまち、死中に活を求める、起死回生を図らねばなりません。そのために、あらゆる手段を講じて探したのが、このたび、今の段階では内定を出しています、四登夏希さんという方です。

四登さんについて、私のほうから3点御説明します。

まず1点目です。

四登さんがお持ちのキャリア、経歴ですね。これがもう、文句のつけようがありません。商社にお勤めでいらっしゃって、その後、一般社団法人RCFというところに移られたんですが、民間での経験、そしてそれを踏まえ、官民連携に今、取り組まれています。もうそれだけでも、即戦力というのが分かってきます。

特に、このまちはこれから、何とか衰退を止めて発展に向けていかないとならないんですが、そのためには、必ず民間の力が必要です。官民連携、まさにここで、四登さんにやっていただけるわけです。

一般質問の中でも述べましたが、新たな取組、スマート農業とかですね、スマート図書館というのもあると思います。いずれにしても、外からの力を持ってこないことには、もう話にならない。どうにも手段がないというのが、当市の現状です。

そしてそのキャリアの中で、四登さんは民間の知見もお持ちですし、何より国や県、この物すごく大きな、大事な枠組みへの理解が非常に深い方です。それらを併せて見ると、キャリア、経歴からして誠に秀逸、このまちにとって適材であると考えます。

2つ目、四登さんという方の人物、人となりそのものです。

お勤めでいらっしゃるRCFという団体は、東日本大震災の復興事業の中から生まれた団体です。ですので、とことん現場主義、様々なステークホルダー、利害関係者が存在する中で、どうやったらWin-Winの関係がつかれるか、より多くの人を巻き込んで力に変えていけるか、それをずっとやってこられた方です。ですので、意見調整、現場に対する発信力、聞く力も同様です。とても兼ね備えていらっしゃいます。

また、その経歴の中で、海外経験というものもお持ちです。シンガポールに留学されたり、アフリカのほうへインターンで行かれたり、ブラジルのほうにも仕事で行かれていたそうです。もうどこでもやっていけるという順応力の高さ、その意味では、このまち、とても田舎で辺境の地ではあるんですが、当市においてもしっかりと適応していただけると安心しています。

あと、この人となりを表す話で、物すごく、個人の活動なんですけど、私が心引かれたのが2つあります。

1つは今、東京にお住まいなんですが、次の世代をどうしたらいいか、考え考え抜いた結果、住まわれている町内会の会長のところに直談判に行って、私にやらせてくださいと、結果、今、役員をされています。会長も初めて聞いたという驚きの反応だったらしいんですが、そういう行動力をお持ちだったりします。

あとは、この広島のゆかりというのも聞いてみました。なぜ安芸高田市なんですか、なぜ広島なんですか。聞いてみました。これは予想外の答えが返ってきました。広島には1回だけ旅行で来た、随分昔にただけということだったんですが、強いて何か、自分の心に浮かぶものを挙げるとするならば、原爆というふうにおっしゃいました。予想外でした。これも、先ほどの次世代に何を伝えるか、それを考えた結果、何と、長崎県の被爆者の方、被爆体験の伝承者として、個人なんですけど、自ら活動されているそうです。

正直この2点、伺ったときに、私、自分を恥じました。年は私より低いんですが、若い方なんですけど、こんな立派な人がいるもんなんだと、仕事だけじゃなくて、個人の生活の部分でも、本当に未来のことを考えている、そういう人がいるもんなんだと、感銘を受けました。

そして最後、3点目です。

属性です。前も少し、一般質問の中で言及しましたが、本来、属性というものは語られるべきではありません。語る必要がないはずなんです。ただ、熊高議員がおっしゃったとおり、現実はそのようになっていません。したがって、あえてここでは属性について触れます。

ちなみにですが、私自身が属性をどう捉えているか。今申し上げたとおり、本来口にすべきじゃないと思っています。ですので、選挙に出たときから、私自身、自分の属性、若いから、若い力でと言ったことは一度もありません。市民の方や、メディアの方、あるいは議員の皆さんが、若い市長だと言ってくくださるのは承知しているのですが、私自身は一言

もそのように言ったことがありません。年の多い、少ないで変えるとか変えないとか、変えられるとか変えられない、それが決まらないからです。ただ、その私でもあえて申し上げます。

今の日本、特にこの数か月は、テレビのニュースでもずっとやってきました。女性の社会進出、女性の参画、まだまだ遅れています。もういいかげん、何とかしましよと言ってきたはずですが、それでも遅れている。ましてこのようなまちであれば、なおさらです。

したがって、ここで女性という副市長が誕生すれば、5年、10年は、事態を進められると思っています。逆に、できないならば、さらに時代に置いていかれるでしょう。

これは、本人の了解を得てお話しするんですが、小さなお子さんをお持ちです。言うまでもなくなんですが、子育て、育児は、女性に限らず、男性もやればいいんです。やるべきなんです。ただ、それでも子育て、育児を大切に、大事にしたいと、それも大事にしたいと、御本人はおっしゃっています。私は、個人としても、何より市長としても、この思いを尊重したい、応援したいですし、まちとしては、応援できるようにならないといけないと考えています。でなければ、未来はないでしょう。

この今のタイミングで、女性の副市長、誕生できるか否か、全国が注目しています。変われるかどうかです。変われるということは可能性です。可能性があるところに人は集まります。希望であり、光なんです。その光が四登夏希さんであると、絶対の自信をもってここに御説明します。御審議のほど、どうぞよろしく願いいたします。

○宍戸議長 これをもって、提案理由の説明を終わります。  
これより質疑に入ります。質疑はありませんか。

2番 田邊議員。

○田邊議員 2番、田邊介三です。

2点、お聞きしたいと思います。

今現在、まさにコロナ禍であり、世の中も大変不安定な状態だと思います。市の事業もカットされる現状で、副市長は2人も要らないのではという声も聞いております。なぜ、このタイミングで2人目の副市長を登用するのか、伺います。

2点目ですが、四登さんが副市長公募に応募された志望動機を知りたいと思うのですが、それを知ることは可能かどうか、伺います。

○宍戸議長 答弁を求めます。  
石丸市長。

○石丸市長 これも一問一答に倣ったほうがよいのかと思いますので、少し区切ってお答えをします。

まず2つ目のほうなんですが、志望動機については…

○宍戸議長 質疑は一問一答ではありません。

○石丸市長 じゃないですか。ではまとめてよろしいですか。では順番にいきます。まず、今、このタイミングで副市長の2人体制を取る理由です。

これは、昨年12月、山本議員の質問に対する答弁でお話ししたところではありますが、今こそ、2人体制を完成させるべきだと考えています。これは、新型コロナ、あるいは自然災害、こういう影響は、いつ何時起こり得る話です。その都度、土台を揺るがしていたら、計画が進みません。

計画というのは何か、先ほど申し上げましたが、構造改革です。このまち、衰退が窮まって、瀕死のところまで来ています。瀕死の状態を救わずして、ほかのもの、続けることはかないません。例えばちょっと難しいんですが、台風が来て、屋根が飛んだと、大事です。屋根は直さにはいけないんですが、ちょっと待ってください。その前に、基礎からずっと傾いてきています。もう斜めになってるんですね。屋根云々も大事なんです、もう倒れます。だから、一刻も早く改革が必要なんです。立て直しが。そしてそれは、今年の6月に方針が決まっています。むしろ半年、半年以上も時間を置いてしまったと、遅過ぎるぐらいだと考えています。

なお、新型コロナ対策というお話が出ましたが、これにおいては、もちろんしっかりと万全の体制をもって臨んでいます。いろいろな経済的なマイナス、ダメージはあります。そして、それに対する必要な措置、支援措置、これも講じるべきではあります。財政的に苦しいという状況も、そのとおりです。ただこれは、先ほどもお話ししましたが、ちょっとやそっとの経費削減で済む話では、大本がありません。ですので、小手先の対応では、むしろ事態を悪化させると考えています。仮に、もし財政を理由に、これはまずいとおっしゃるのであれば、それは考えが遅過ぎると言わざるを得ないと考えます。

9月30日ですが、米村副市長、この場でです、選任の同意をいただいたときに、その場で2人目の副市長、公言しています、私は。

コロナの影響、昨年の中半のほうが一番ひどいんですね。資力が一番大底です。だとするならば、もしコロナの影響、経済的ダメージをお考えでいらっしゃるならば、そのときから、主張があつてしかるべきですし、何より、選挙に出られるとき、副市長2人体制の廃止を掲げられるべきだったと思いますが、そのような方はお1人もいらっしゃらなかったと認識をしています。

この経済情勢の読み方なんです、僭越ながら、前職金融機関のエコノミストとしてやってきた知見、その観点から、誰よりも自信を持って正確に状況を読んでいるとお伝えしておきます。循環的な要因、構造的な要因、それぞれが複雑に絡み合うものではあるんですが、いろんな国、いろんな地域、いろんな時代のそれを分析してきた、その人間が、覚悟を持って御説明しています。今、やるべきだと、今しかない、これが最後のチャンスだと思っています。

2つ目の御質問のほうなんです、四登さんの志望動機ですね。先ほどお話ししたエピソードの集大成なんです、次世代のために、地域社

会に対して具体的に何かをしたいと、その思いに尽きます。ずっと思っ  
ていらっしやったそうです。でも、なかなか副市長の公募というのはい  
りません。日本でも3例目のはずです。大々的にやったのは。その意味  
では、実に奇跡的なタイミングで、私たちが求めるこのポストに、誠  
にふさわしい方が関心を寄せてくださった。その四登さんの思いとい  
うのは、このまち安芸高田、ここから始め、地域、社会、日本全体、そ  
こにつながっていくものだと、つなげたいというふうにお考えでいら  
っしゃいます。ですので、私としてもぜひ一緒にここで成功事例を積み  
上げ、それをいろんなところに展開していく、そのような道筋を想定し  
ています。

○宍戸議長 答弁を終わります。  
ほかに質疑はありませんか。  
5番 新田議員。

○新田議員 5番、新田和明でございます。  
同意第1号、安芸高田市副市長の選任の同意について、質疑申し上  
げます。

市長は、エン・ジャパンの採用支援プロジェクトで公募され、4,115  
名から選ばれた四登夏希さんですが、この2点伺ってみたいと思いま  
す。

まず1点目、エン・ジャパン採用支援サイトの中で、市長は、民間連  
携、テクノロジーの活用で、知恵を武器にとということで、6つの町が部  
分最適で運営されていた課題について、市民に厳しい現状を伝え、先  
ほども話がありましたが、事業や施設整理の意思決定を行うべきと考  
えているとあります。副市長就任後、このことについて、市民理解や  
地域課題解決など、アドバイザー役として担っていくというふうにか  
ら考えていいのかどうか、これがまず1点目。

それから2点目です。

四登さんの前任のお仕事の経験を生かし、核となるアイデアでオール  
安芸高田市の発想で市民満足を勝ち取り、持続可能なまち安芸高田  
市に変えていくと理解しましたが、これで間違いないか、この2点を伺  
います。

○宍戸議長 答弁を求めます。  
石丸市長。

○石丸市長 簡潔にお答えすると、おっしゃるとおりです。

少し付け加えさせていただくと、まず1つ目の市民の理解を得るた  
めのアドバイザーという役割、これはもちろん期待をしています。た  
だ、アドバイザーというと、今、RCFでされている官民の連携です  
ね、連携役のほうに近いイメージかと思えます。その意味では、こ  
のたびは、より現場、当事者として動いていただけるようになります  
ので、もちろんアドバイスも過去の経歴、キャリアから導かれるアド  
バイスも大変ありがたいんですが、それを我が事として、自らがそ  
こで実現される、これを期待しています。



2つ目のほうなんです、オール安芸高田、全体、市民の満足度を高める、これはもちろんそのとおりです。その前段にありましたが、市民の意識、まずは危機感の共有だと思っています。今申し上げたとおり。もう100%近い経常収支比率というのは、借金生活目前なんですね。これまで、あまり意識せず、恐らくそれほど不自由なく行政サービスを受けられていたかと思うんですが、これがかなわなくなります。満足度が急低下していくのが、目前まで迫っています。もう見えています。ですので今止める。ここでかじを切るしかないんです。そして、かじを切った暁には、当然ですが、よりよい未来、市民の満足度は確実に上げていけると考えています。

○宍戸議長 答弁を終わります。  
ほかに質疑はありませんか。

1番 南澤議員。

○南澤議員 1番、南澤克彦です。

本件、副市長の選任同意につきまして、3点、質疑をさせていただきます。

1つ目は、公募の公平性についてです。

副市長の選任は、本来、この人が副市長として、私、一緒に仕事したいですということで、一本釣りでもいい、現に、今こちらにいらっしゃる米村副市長がそういった形だったかと思えます。それでも公募を行った。その公募のことがホームページなどに書かれていて、WEB上のコメントなんかでも、ひょっとしたらこれ、出来レースだったんじゃないかというような、疑う声も散見されます。

私はそういったことはないと思うんですが、そういった声が現に存在するので、ぜひこの場で、そういったことはないんだということを、しっかり御説明していただきたい。

選考過程で、4,115名の方が応募されたと。それが書類審査を通過して、職員による一次審査があって、その後、13名に絞られたと聞いています。その後、市長、副市長において1名選任されたと。この選考過程の詳細をお伺いしたいというのが1点目。

2点目です。2点目は、私、12月の一般質問で、攻めの副市長と聞いて、具体的にどのようなことをされるのかと、この場で問いました。その際、市長の答弁で、三セクの経営再建をやってもらいたいと。それから、起業の支援をやってもらいたい、そういう答弁を頂いたと思います。この四登さんがこの2点、どのように実行されるのか、どのようにつながるのか、そのあたりをお聞かせください。

3点目です。

副市長の仕事、事業調整だったり、事業の実行に直接携わるというようなお話ですけれども、これをお1人で回すというのは、なかなか大変な仕事なのかなというふうに思います。同じような仕事を回す、部下というか、チームの体制づくりが必要になってくるのかなというふうに考

えますが、その実行体制をどのように作っていくのか、その3点をお伺いいたします。

○宍戸議長 答弁を求めます。

石丸市長。

○石丸市長 まず、選考の方法についてなんですけれども、これは、南澤議員がおっしゃるとおりです。本来、市長の独断で人選はできます。それを、あえて公募という形にしました。なぜか。公明正大にしたかったからです。

市長選に出るときから、これは言っている話なんです、政治の見える化、分かる化ですね。何かよう分からん力学が働いて、こんななるとすると、チェックのしようがないんです。ですので、そこをオープンにしたかった。これが公募のそもそもの出発点です。

そうしたときに、いろいろ腐心しました。工夫しました。その一番のポイントは、全部で選考3段階あるんですが、2番目の選考、これは職員の代表、全職員の選挙で選んでもらった代表なんです、この7名、7名に完全に預けました。私も米村副市長も、一切関与していません。完全にその7名だけで、40人から13人に絞っていただいています。ですので、出来レースというのは、その時点で通常切れてしまうんですね。

これをどこまで証明するかというと、切りがないんですが、申し上げたとおり、公明正大にしたい、オープンにしたいという発想ですので、そのようにわざわざ面倒な手続を置いています。

そのエン・ジャパンという企業を使った理由等は、先日の一般質問の中でお伝えしたところです。これは、山本議員が少し触れられて、その後、答弁の機会がなかった、この際に少しお話ししますと、1月4日の記者会見で、背景がエン・ジャパンのあれだったというのがありますが、あれはカメラの角度がそっちに寄っているの、そう見えていますが、安芸高田とエン・ジャパン、両方後ろに置いてありました。エン・ジャパンを使う理由は、これは明白です。ネームのバリューが違います。プレゼンスが。全国規模で募集をするに際して、安芸高田市だと全然効きません。もう漢字すら読んでもらえないんです。「やすげいたかた」になります。なので、エン・ジャパンを使ったわけですし、そのために背景もふさわしい形を用意しました。

詳細というと、どこまで話すか悩むんですが、そのように、募集を始める段階から最終まで、間、きっちり区切って透明性の確保をしています。そしてそれは、職員の選挙によって選ばれた人間に任せています。これは透明性と同時に、事後的な戦略も含んでいます。何かというと、これは勤め人の宿命なんです、上司は選べないという、多くの方が苦悩する現実があります。これを何とかしたかったんです。

私自身、市民には選んでもらいましたが、あいにく、市の職員に選んでもらったわけではありません。多かれ少なかれ、何なんだこの人と、急に変わった市長が来たなど、そう思う職員もいたはず。今もいるかもしれませんが。そうした摩擦、これを少しでも和らげるために、2

番目は職員に任せました。なので、あらゆる効果を狙って、この段階を、手順を作っています。最終的なところは、当然市長が責任を持つべきですので、面接は私と米村副市長で最終面接、三次の選考を行いました。そこでは2人の協議の結果、四登夏希さんが最適だと、この見解に落ち着いています。意見が一致して決まっています。

2つ目のところですが、攻めの副市長として、三セクと起業、ベンチャーのことですね、これをどのように任せるかです。

まず、三セクなんです。これは実は私の役目がかなり大きいです。圧倒的に大きいと思っています。というのは、これまで紆余曲折があって、今、この状態になっています。ここにメスを入れないといけないんですね。そして、そのメスを振るっていいのは市長だけです。市長の権限でもってやる必要があります。ですので、当然、副市長に見てもらった部分はあるんですが、最終は市長が全て決断をします。決裁をします。

これも私の前職のキャリアなんです。銀行員というのはまさにそこですね。前、どこかの機会でお話ししましたが、決算分析というの、まさに自分でやっていました。ですので、そこは主に私がやっていく。ただ、土壌改良しただけで終わってはならないというのが改革なんですね。その先に、本当に再建させていくためには、未来につながる事業、これを植えて育てていく必要があります。これを四登さんにはやっていただきたい。そしてその際には、ぜひともといいますか、必ず、民間の活用、これが必要になってくると考えています。

そしてベンチャー、起業のほうも同様です。これは、実は、RCFという団体が、先ほど申し上げたとおり、復興支援の中で生まれています。ですので、実際、福島県だったと思うんですが、10かそこらのベンチャー、起業を支援された実績をお持ちです。復興という、非常に厳しい環境の中でそれを成し遂げた、やり遂げた方ですので、確かに地域、課題は違うんですが、このまちにおいても同様、もしくはそれ以上の成果が上がると考えています。

最後、体制づくりの話なんです。これはまずは、今ある組織、これを動かしていただきます。ちょっと抽象的なんです。なぜかという、次の年度、令和4年度に向けて、大きな組織再編を考えています。改革の体制としては、そこからがいよいよ本番となります。そのために、令和3年度の1年間は、それこそ市長と副市長がそろった形でいろいろ協議をしていく、この準備期間として捉えています。ただ、1年間無為に過ごすつもりは全くなくて、その間は四登さんに個別のプロジェクト、P Tというんでしょうか、プロジェクトチームというものを率いいただいて、先ほどの三セクの再建であったり、ベンチャーの支援であるとか、いろんな民間の活用、これをやっていただこうと考えています。

○宍戸議長

答弁を終わります。

ほかに質疑はありませんか。

13番 秋田議員。

- 秋田議員 13番、秋田でございます。  
1点ほど、お伺いしたいと思います。  
今回の選任同意につきましては、公募制ということで、いろいろと理由も今、説明もあつたかと思ひますし、質疑もございました。一番私が思っているのは、四登さん、今現在、住所が東京都、ということでございます。今後、これは選任同意が得られた話にはなるかも分からないんですが、仕事の取組方ですね、期待をされている中での取組方として市民も関心があるんじゃないかと思うんですが、今後どういう形で仕事をなさる、今、住所が東京にあるということで、今後はどういうふうにお考えなのか、お伺いしたいと思います。
- 宍戸議長 答弁を求めます。  
石丸市長。
- 石丸市長 同意が得られた後に、すぐさまこちらの移住、その準備を始めていただくことになっています。実際、今もう、空き家を探して下さったりと、あと、お子さんもいらっしゃるようですので、保育園の調整等、いろいろと準備を進めてくださっています。そして、時期としては4月の中旬になるかと思ひます。1か月ぐらひは普通に考えて、引っ越しだけでも大変ですので、今、お勤めでいらっしゃる会社の引継ぎ等もあるかと思ひます。ですので、約1か月の後にこちらに就任、ここでの生活であり、ここでの公務を始めていただく、その計画でいます。
- 宍戸議長 答弁を終わります。  
ほかに質疑はありませんか。  
12番 熊高議員。
- 熊高議員 12番、熊高昌三です。  
市長、いろいろ、先般の一般質問以来、この件に関しては聞かせていただきました。かなり、今日、さらに腑に落ちるところが随分ありました。  
そういった中で、最終選考を共にされた米村副市長の一緒に取り組んだ経緯の中で、最終選考のところも一緒にやられたということなので、その辺の副市長の感覚を、市長の前ですから、市長と違うことは言えないでしょうけれども、そこはしっかり副市長の感覚でお答えいただきたいと思ひますが、市長、よろしいですか。副市長に答えていただいて、よろしくお願ひします。
- 宍戸議長 答弁を求めます。  
米村副市長。
- 米村副市長 確かに、最後の選考については、先ほども市長からの説明ありましたように、私と市長で、2人で行いました。そのときに、13名の方と面談、WEBでしたけれども、させていただきました。その中で、先ほどもかなり市長から、人物像といいますか、その3つの選ばれた理由というのを掲げられておりますけれども、そこは私も同じです。最後は、最終的に1人選ぶときには、その3つの点について、同じ考え方でございますの

で、この答弁で話をさせてもらいますと、今、市長が言われた以外のこと、私が感じたことを率直に申し上げますと、まず、この方の人物像といますか、皆さん、議員の中でも会社を経営されているとかいう方もおられると思いますけれども、そういったトップ、またはナンバー2というものの、あとまた管理職というのは、決断力の速さ、さらに速いばかりじゃ駄目なんですけれども、決断のできる方という方というので、いろいろこの話を聞きますと、決断力についてはかなり持っておられるというのを私は強く感じました。

それから、任期が4年間なんですけれども、4年間の中でどのように改革を進めていくかというようなことも聞きました。その中で、一番思ったのは、もう4年ではないと。四登さんは3年でやり抜きたいというようなことを言っておられました。最後のもう1年は、次の方に引き継ぐ準備をしていきたいという、そこまでもうタイムスケジュールといますか、そういう思いを持っておられます。

また、仕事の話に戻りますけれども、私、いつも職員とかに言うんですけれども、計画をもって仕事をせんと駄目と。とにかく、スケジュール感をもってして、その中で報告なりの重要性をずっと訴えておりますけれども、まさしくこの四登さんは、上に立つ者としてのそこらの感覚を持っておられると、人物像として私も感じております。

それからあと、いろいろ聞く中で、さっきのスケジュールじゃないですけれども、この方はもう、1週間単位ぐらいでスケジュール管理をしているというのを言っておられました。だらだらと1か月単位のスケジュールじゃなくて、もう目標は1週間単位で考えて、その中で1週間を振り返るというようなことを、面談の中で言っておられました。そこから、総合的に、先ほど市長からもありましたように、この安芸高田を変えていただける方、変える人と思いました。

それから、将来的に市長が掲げております新しい、また真の安芸高田市で、世界一住みやすいと思える安芸高田市をつくってくれるという人物ということで、私は評価しております。

以上です。

○宍戸議長 答弁を終わります。  
ほかに質疑はありませんか。

(質疑なし)

○宍戸議長 質疑なしと認めます。  
これをもって質疑を終結いたします。  
お諮りいたします。

本案は、委員会への付託を省略したいと思います。  
これに御異議ありませんか。

(異議なし)

○宍戸議長 異議なしと認め、委員会への付託を省略いたします。  
これより討論に入ります。

討論はありませんか。

討論がありますので、まず、本案に対する反対の討論の発言を許します。

3番 山本数博議員。

○山本数博議員 私の反対意見を述べさせていただきます。

このたびの副市長全国公募につきまして、さきの一般質問において、業者選定や業務の委託契約にかかる予算、さらに募集要項の市民への告知について、伺わせていただきました。その結果、契約については、監査が行われるのを待つほかないと思いました。そして、予算について、予備費の充用は業務の重要性から、後に行われた議会への報告が必要ではなかったかと思えます。

そして、最も重要なことは、募集内容の市民への告知であります。報道機関への記者発表と、インターネットでの業者を通じての告知などで、募集内容が市民へ最善を尽くした告知とは思えない方法で行われております。また、応募につきましては、総務課での応募を受け付けるのではなく、インターネットで委託業者に応募するようになっていました。結果として、募集に際し、市民の多くが、等しく応募の機会が与えられていたとは思えません。よって、募集手続において不備を感じられるこのたびの選任同意には、住民の信を得た議員として、反対の意思を表明させていただき、私の意見とさせていただきます。

以上です。

○宍戸議長 討論ですね。

○山本数博議員 はい。

○宍戸議長 次に、本案に対する賛成討論の発言を許します。

5番 新田議員。

○新田議員 5番、新田和明でございます。

賛成の立場から討論させていただきます。

同意第1号、安芸高田市副市長の選任の同意について、先ほど市長もおっしゃいましたが、私は、令和2年第2回定例会において、副市長2名体制について討論させていただきました。ICT技術による施策の展開や業務の効率化が求められる中において、縦割り行政を横でつないでいく指示や命令権限のある副市長が必要。また、安心・安全なまちづくりなど、スピード感を持って施策展開できることを期待すると討論しております。四登夏希さんは民間で、官民連携による社会の課題解決事業を企画する会社に在籍され、これから本市が取り組む課題解決の核になり得る方だと感じました。

本市は、伝統的な神楽等の文化や、また、ふるさと応援の会という約2,200名の本市出身の人材の団体があります。資源はさらにたくさんあります。これらを活用されることを期待しております。

また、専門知識や経験を基に、力をフルに発揮していただき、市民の理解を得、本市発展のため御尽力していただくことを期待し、賛成の立

場からの討論とさせていただきます。

以上です。

○宍戸議長 次に、本案に対する反対討論の発言を許します。

7番 山根議員。

○山根議員 副市長の選任同意に反対討論をいたします。

現在の安芸高田市の財政状況、先ほど市長が言われたごとく、瀕死の状況であると。昨年9月には、火の車って言われました。それが本当に経常収支比率も上がり、今は瀕死の状態。

財政状況のことを、市長は、それを言うなというような言葉もありましたが、災害等が起こったときに使うための貯金、これ、財政調整基金と言いますが、現在、約6億円になっております。3年前の、市長、いらっしやいませんでしたけれども、平成30年7月の災害で、23億円あったものが、その貯金を約半分取り崩し、その後も、新型コロナウイルスの影響で大変厳しい状況になっております。財政調整基金は、安芸高田市の場合であれば、12億円から24億円が適正值と言われております。令和元年のこの財政調整基金、8億円でした。平成30年が12億円、11億円削って12億円になり、それが令和元年には8億円。そして、今まさに6億円。なかなかそれを取り戻すことができていません。

私がこれを言いますのは、平成30年、災害事業関連24億円。さらにその後4億円。30億円ほどかかっております。そういった状況の中で、市長も言われたように、いつ災害が起こるか分かりません。この夏も、大変心配です。なかなか冬の雪害のため、除雪費用に何億円もかかり、ためていくことができなかった。そんな状況の安芸高田市です。

その財政的な、私は財政健全化については、市長に大変期待をしております。今後に向けても頑張っていかれるでしょう。でも、やはり財政は大きな問題です。そこを1つ、私は訴えたい。

さらにですね、市長が施政方針においても力を入れられているコンプライアンス、法令遵守と言われますが、簡単に言うと、法律で禁止されていることはしない。社会通念に反することはしない。うそはつかないということです。このコンプライアンスの意識を徹底した健全な市政運営に向けても、まだまだこれからじゃないですか。まずは健全な財政と健全な市政運営に向けて、攻めの要には市長御自身がなることによって、安芸高田市を引っ張っていかれるときだと思えます。

故に、今の安芸高田市の現況は、副市長を新たにお問い合わせするような状況ではないと考え、選任同意に反対をいたします。

○宍戸議長 次に、本案に対する賛成討論の発言を許します。

13番 秋田議員。

○秋田議員 13番、秋田でございます。

賛成の立場で討論をさせていただきます。

まずもって、市長2人制、6月定例会でございましたけれども、私も2人制に賛成をした立場でございます。それから、この2人制については、

少し空きはございましたけれども、石丸新市長になられまして、その取組をずっと考えてこられて、今日、いろいろとその四登さんについては、選定理由、公募からの理由と、いっぱい詳しく説明をいただいたつもりでございます。

私はまず、何といたってもこの安芸高田市の未来、どんな将来を目指すかということを考えるときに、一番大事なのが市長、副市長2人制のどちらかも、みんなが、3人が連携した取組をして、あくまでも市民のために、未来へ向かっていける安芸高田市になってほしいという思いがございます。

そうした中で、守りについては、米村副市長が本当に、まだ期間的には短うはございますけれども、いろんな取組の中で、しっかり任されてやっておられるということを理解しつつ、今度は施政方針でも、攻めの要としての副市長だということをおっしゃいました。その攻めるといふことが、守りと攻め、守りはあくまでも市内全域のことがしっかり把握できて、それからそれを施策でしっかり展開をしていくというのがそうだと思います。ただ、攻めのほうはですね、しっかり未来に向かった考え方をもって取り組んでいかななくては、攻めにはならないと思うんです。その攻めをするためには、若さも要ります。だけど、市長、若さでどうのこうのとは、話はされていませんでした。が、しかし、ここに私たちは夢というか、今回同意して、その将来を託すという気持ちの中で、その託す気持ちの中のいろんな意見を集約していくのが私たちであり、その施策の展開状況によっては、しっかりチェックしていく、それが議員、また議会でございます。それを対等にやっていくのが、今後の安芸高田市の将来につながるんだという思いの中で、私はぜひともこの体制を期待して、四登さんにしっかり期待して、賛成討論とさせていただきます。

○宍戸議長 次に、本案に対する反対討論の発言を許します。

10番 大下議員。

○大下議員 10番、大下正幸でございます。

このたびの安芸高田市副市長の選任同意について、反対討論をいたします。

公募で、4,115名の方々の応募があったとありますが、どのような選考基準で選ばれたのでしょうか。4,115名もの中には、業績も素晴らしい方がおられたと思います。この中から人選を行うには、透明性の観点から、選考委員会等を設置し、客観的な基準の下に審査は行われるべきではなかったのではないのでしょうか。市長が恣意的に判断されたとしか考えられません。

コロナ禍で、この先、経済が見えない中、また財政の厳しい中、この時期に2人目の副市長が必要だったのかという市民の声も多くなっております。また、改革するなら市長が進められればよいのではないですか。

同意第1号も、3月2日に、安芸高田市副市長として次の者を選任したいと、ある書面に内定者の略歴書を添付された書類が初めて提出されま



した。人材的にはすばらしい方かもしれませんが、これまで行政経験や国・県との調整能力の有無など、この方のことがよく分かりません。選任同意するからには、我々議員も責任があります。

よって、このたびの副市長の選任に同意できないと判断いたしました。以上、反対討論といたします。

○宍戸議長 次に、本案に対する賛成討論の発言を許します。

12番 熊高議員。

○熊高議員 12番、賛成の立場で討論をさせていただきます。

今、るる、3名の方から反対の討論の中身を聞かせていただきましたが、まず、法律的に問題があるか、ないかということは、先般の一般質問の中で、私が聞かせていただく限り、問題ないというふうに判断をさせていただきました。

また、コンプライアンスについて、あるいは財政改革についてという反対の意見もありましたが、コンプライアンスについても、先般の一般質問の中で、十分確認をできました。法律違反はない。そういった市長の答弁もありました。

また、財政改革について、これは我々議会も含めて、これまでの結果が今、財政危機に陥っているということも意識しないといけないと思います。

昨年就任された石丸市長の責任、これを問うには、今はまだ時期尚早だというふうに私は思います。しかし、しっかり頑張ってやっていただく必要はあるというのは、同じ思いであります。

また、選考の透明性、これについても、先ほど来からるる説明を頂き、新しい仕組みの中で、新しい、本当に私たちが考えられない、エン・ジャパンという組織を使いながらやってきた、この内容についても、十分私は理解をできました。職員も中間に入って選考したというようなことも含めて聞かせていただき、なるほどなというふうに考えた状況です。

財政的に、今回の副市長2人目がどうかということですが、これについても先ほど市長が、しっかりこの副市長を使って、この財政改革もしていくんだと、こういった思いをお話しされた。これからスタートする状況の中で、私はそれで十分期待ができるなという思いがしております。

また、手腕について、3点について、四登さんについてお話をされておりましたが、とりわけ副市長の言葉も、そうはいつでも市長は言葉が巧みですからね、なかなか本当かなという思いがしますけれども、副市長の人柄からすると、正直なんだろうなという思いもしまして、あえて聞かせていただきましたが、そういったことも含めて、選考の過程というのは、十分理解をさせていただきました。

さらに私が、今一番申し上げたいのは、この安芸高田市の今がなぜ起こってきたのかということです。石丸市長もどこかでおっしゃったように、墓を暴くようなことは、するべきではないというふうに思います。ただ、去年の河井のお金の問題から、この安芸高田市の政治、これを変

えたいという思いが市民の中に生まれてきたんです。

そして、市長選挙になったわけですが、この市長選挙、私、正直に、竹本前副市長を応援しました。あの人は経験もあるし、コンプライアンスもしっかりした人だというふうに私は認識をして、あの人を応援させていただきました。しかし、市民の答えはノーでありました。これまでの流れを変えるというのは、いかにそういった人物でも難しいという判断をされて、8,000票に余る市民の負託を受けられたのが、石丸伸二市長であります。このことを、私たちはしっかり受け止める必要があると思います。

ただ、最近の石丸市長の手法にはいろいろ市民の皆さんも異議があり、評価も下がったというのも実態だと思います。

私は夕べ、8時頃いろいろしながら帰ってみましたら、1枚のはがきが届いていました。熊高昌三様。安芸高田市出身の会社員、男性20代後半というふうに書いてあります。結構小さい字でたくさん書いてありましたが、何かお父様が、その一般質問の初日に傍聴に来られたようです。この人は多分、YouTubeか何かで現場を見られたんだと思います。そういった中で、一番、そうだなと思って見たのは、この人も、市長の議会での振る舞いには反省すべき点はたくさんある。しかし傍聴者多数、あるいはテレビ局多数が入っている中、批判されることが分かっている状況であの振る舞い、相当な思いと覚悟の表れだと、この人は受け止めたというふうに書いてあります。この思いを理解し、覚悟を受け取れる議員は、あるいは市民はどの程度いるのか、当日のニュースは市長批判もたくさんあった。最後のほうに、仕事でも議会でも、物事を進めるには、ある程度、同じレベルや方向性を向いた、一致した思いがないとできない。とりわけ、こういったことを進めるには、コンプライアンスが大事ですということで締めくくっております。20代の人もしっかり見ているんだなど、私は感じました。

そういったことも含めて、今回の副市長人事、市長は本当に言葉巧みと言えればあれですが、その言葉は思いがないと言葉になりません。イギリスの鉄の女と言われたサッチャー首相のお父様が、まず考えを大事にしなさい、それは言葉になります、言葉は行動になります、そしてそれが習慣になり、自分の哲学となり、それが信念を実行できる、そういう人間になりなさいというふうに、サッチャー首相のお父様が言われたということを、何かの本で読みましたが、まさに、言葉にはその人の背景、考えがあるからこそ、言葉になるんだと、私は思います。

私より30歳ぐらい若いですが、そういう意味では非常にすごいなという、私は思いがしております。

昨晩、もう夜中の1時、2時だったですかね、眠れなくて、この間、教育長と教育委員会のことを話をしたときに、教育会議の議事録を、私はまだ読んでいませんでした。昨晩、インターネットを使って、議事録を全て読みましたが、議事録ですから、正直なところなんでしょうけれど

も、その中で、教育委員の皆さん、それぞれの意見をしっかり聞きながら、じゃあ私は市長としてこうしましょう、あるいは教育の方向性を共有できる、そういったことがまさに詳しく書いてありました。言葉が足りないなという思いもする分も、市長の答弁にはありました。けども、新しく市長になって1年たたない、しかも民間から来た人が、そこまでの教育についての思いというのをしゃべれる、これだけでもすごいなというふうに私は感じました。

そういったいろんな思いを、これまで市長から聞く中で、この市長が選んだ、あるいは副市長も一緒に選んだ、この四登さんという方を、私たちは今年の市長選挙8,000名余りの皆さんの思いと共に、私はしっかり受け止めるべきだというふうに思います。

いろいろな感情、あるいは怨念、そういったものを捨てて、今こそ、この安芸高田市議会と執行部が一体となって市民の負託に応える、その大きな私は分岐点だと、この場が、そういうものだというふうに私は受け止めております。ぜひとも一緒になって、この四登さんを迎えて、新しい安芸高田市をつくっていきましょうありませんか。どうぞよろしくお願ひします。

○宍戸議長 次に、本案に対する反対討論の発言を許します。

11番 山本 優議員。

○山本優議員 11番、山本 優でございます。

このたびの選任同意について、反対の立場として討論をいたします。

〔議席のマイクからノイズが発生〕

○宍戸議長 傍聴者の皆さんには、発言の許可をしておりません。

傍聴者の皆さんに発言の許可はしておりませんので、発言は控えてください。

暫時休憩いたします。

~~~~~○~~~~~

午前11時12分 休憩

午前11時14分 再開

~~~~~○~~~~~

○宍戸議長 休憩を閉じて会議を再開いたします。

11番 山本 優議員。

○山本優議員 途中、ちょっと事故がございまして、遮られたので、ちょっと頭の中が整理できてませんかもしれませんが、最初からやらさせていただきます。

このたびの選任同意について、反対の立場から討論をさせていただきます。

先ほどから、賛成、反対、多数の意見が出ておりますが、私は端的に反対の内容を述べたいと思います。

現在も社会では、コロナウイルス対策で大変苦しい状況にあります。この状況がいつまで続くか、不透明であります。そのような中、観光産業、飲食関係の業界は、大変苦しい状況にあります。その中で、副市長

2人制は、昨年6月に議会で承認されております。しかし、このような状況の中で、大変市民が苦しんでいる状況の中で、2人目の副市長を選任しなければならないのかという問題については、多数の意見がございます。市民からは、今はそのような状況ではないだろうという意見がございます。

今の財政状況を見てもそうですが、新年度予算については、廃止事業が16項目、凍結事業が1項目、合計で約6,000万円ぐらいの予算が削除されております。大変財政状況が厳しい状態であります。

そのような中、2人目の副市長を選任することが必要なのかという気持ちがいまいちと占めております。

それから、それともう1点、先ほどから紹介されました四登さんという人物については、市長も副市長も、しっかりとアピールされました。しかし、私たちにとっては、本人との面識も、本人の能力も、実際に会ったわけではございませんので、何1つ把握はできておりません。そのような人物を、私は責任を持って、副市長として選任、承認することはできないと思っております。市民に対して、その責任を持ってないと、私は思います。

将来を見て、考えて、この副市長候補四登さんを承認して、市長、副市長3人体制でしっかりやっていただきたいという気持ちはありますが、たちまちにおいて、今回の選任については、私は必要ないと思っておりますので、反対としまして、反対討論とさせていただきます。

○宍戸議長 次に、本案に対する賛成討論の発言を許します。

6番 芦田議員。

○芦田議員 副市長の選任同意を求められた四登夏希さんは、日本だけでなく海外も含めて、4,115名の…

〔議席のマイクからノイズが発生〕

○宍戸議長 暫時休憩いたします。

~~~~~○~~~~~

午前11時19分 休憩

午前11時20分 再開

~~~~~○~~~~~

○宍戸議長 休憩を閉じて会議を再開いたします。

6番 芦田議員。

○芦田議員 副市長の選任同意を求められた四登夏希さんは、日本だけでなく海外も含めて4,115名の応募者の中から選ばれた方です。キャリアも民間企業勤務の後、社団法人で官民連携の仕事や、仕事を起こしていく起業支援の仕事などに携わっておられます。特に、官民連携とまちの中に仕事をつくっていくことは、これからの安芸高田市の発展に絶対欠かせません。

四登さんのキャリアと情熱は、安芸高田市のこれからの改革と発展に必ず力になってもらえると確信し、賛成討論とします。

○宍戸議長 次に、本案に対する反対討論の発言を許します。

9番 児玉議員。

○児玉議員 9番、児玉史則です。

副市長選任同意について、反対の立場から討論させていただきます。

女性の副市長、それから先ほど、市長のほうから説明がございましたが、大変能力の高い方、期待の持てる方と感じました。ただ、昨年から続くコロナの影響は、今年も引き続き続いており、飲食店やそこに働く人々の衰退が非常に大きく、回復が見込めない状況になりつつあるように思います。

しかしながら、そういった中で、第三セクターへのコロナ支援には、多くの金額が投入されており、それならば民間の業者への支援も当然必要であると考えております。そうしますと、このたびの1,200万円の人件費、それにプラスしてでも飲食店、旅行会社等を救済し、まちの衰退を防ぐこと、先ほど市長は瀕死の状態と言われましたが、今年は守備を固めることが、本年度の最優先事項と考えております。

また、コロナの影響で今年は、副市長を迎えても都市部との交流が非常に難しく、なかなかスムーズにいかないと思いますので、本年度の副市長の起用に反対の立場で討論いたします。

○宍戸議長 次に、本案に対する賛成討論の発言を許します。

1番 南澤議員。

○南澤議員 賛成の立場で討論をさせていただきます。

先ほど来ありますように、右肩上がり経済が伸びていく時代は過ぎてしまって、人口減少における縮減社会が、今、目の前にあります。

安芸高田市、合併して17年になります。この間、様々な施策を打って、それぞれそれなりに成果を上げているものの、人口減少が進み、財政も逼迫しているというのが現実です。加えて自然災害やコロナ、こういった問題も突発的に起き、全国的に将来の展望が開けない、重苦しい状況にあります。

経済成長期は、こうしておけば大丈夫という処方箋、方程式があったものの、今は通じなくなっている、こういった時代の変化に適応していく必要があります。こんな状況だからこそ、これまでになかったアプローチに挑戦していく必要がある。今回の副市長公募がまさにそれではないかと思えます。

先ほど、市長からあった説明を聞く限り、今、安芸高田市が取り得る最善の手段で、この副市長候補の四登さんが選ばれたと感じています。

反対される議員の中に、議会に対する報告がないというような声も多くあるかと思いますが、これは裏を返せば、もっと相談してほしかった、議会を頼りにしてほしかったというような声ではないかなと感じています。市長が就任して7か月余り、そういった関係性をつくってこなかったという市長には、やっぱりその一部の責任があると思います。議会と市長が対立していて、こういった多くのマスコミが来るような状況にな

っている。ただ、これをですね、この3月の議会を1つの区切りにして、お互い対話をすることによって新しい関係性を築き、雨降って地固まるというような状況にしていきたいと思っています。

対立を乗り越えて、健全なチェック・アンド・バランスの関係になることが、何より市民の願いですし、我々、ここにいる皆さんの務めだと思っています。

今回、選任同意案件、上がってきている四登さんは、一般財団法人のほうで、事業調整、事業実行のプロというふうに説明を受けています。この方が就任されてよくなるかどうか、実際はやってみないと分からないところ、かけの部分が大きいと思いますが、何もしなかったときに比べて、この場で、四登さんが来ていただいて、その手腕を振るっていただくほうが、安芸高田市がこれから輝いていく可能性が高いのではないかと、説明を聞いて、私は感じました。かけですが、そちらのほうが勝算が高いと見て、そのかけに乗りたいと思います。

官民力を合わせて、希望あふれる新しい安芸高田をつくっていくために、そのお力を借りていきたい。しかし、ただ1人の人が加わっただけで、市がよくなるようなものでもないと思います。私たち市民、行政もそうです、議員もそうです。一人一人がこのまちをよりよくなるように力を合わせる、まさに百万一心、そういった状況でこのまちが発展していけるように願ひまして、私の賛成討論を終わります。

○宍戸議長 次に、本案に対する反対討論の発言を許します。

8番 先川議員。

○先川議員 反対の立場で討論させていただきます。

確かに今、説明された四登さんという方は、素晴らしい方だと私も思っております。これまで、さりとて今、大変財政が難儀なときでございます。市民の方も、コロナ禍の下で精神的にも肉体的にも、大変苦しんでおられます。

こういう状況の中で、私はこれまで市政をずっと進めてこられた部長をはじめ職員の皆さん、何も石丸市長が替わられたからといって、部長、職員の方は、前のときとほとんど同じでございます。一生懸命頑張っただけでこられたと、私は思っております。ぜひともこの市長さんは、世界一住みよいまちづくりにするとおっしゃっているわけですから、この下にですね、副市長さん、県から呼ばれた優秀な副市長さん、また、優秀な部長さんをしっかりと活用していただいてですね、私はこの危機を救っていただきたいと思ひまして、反対の討論とさせていただきます。

○宍戸議長 次に、本案に対する賛成討論の発言を許します。

2番 田邊議員。

○田邊議員 2番、田邊介三です。

副市長の選任同意について、賛成の立場から討論させていただきます。正直言うと、初めてのところでかなり悩みました。判断するにはですね、ちょっと材料が少ないのではと感じましたし、公募という方法だっ

たためかもしれませんけれども、選考の過程で、ちょっと分かりにくいのかなというふうに思う部分もあったのも事実です。

しかしながら、市民の方から期待の声も届いております。選考の方法等、法律違反等があれば、コンプライアンス違反があれば大きな問題だとは思いますが、そういったわけではない中でも、確かに、周知の方法等、改善する余地は今後あるのかなと感じております。

改善すべきところは、今後改善することは可能ですが、四登さんを副市長として登用するチャンスは、今回しかないのかなと感じております。

世の中がコロナでこんな状況だという意見も確かにあります。こんな状態だからこそ、手を打たなければならない、そう思うようになりました。

確かに今、財政が厳しい、そういった話の中で、副市長は2人も要らないんじゃないかという意見も確かに届いております。であるならばです。副市長1人体制で、財政再建できるのであれば、そもそも2人要らないんじゃないという話だと思います。変えていかなければならないから2人要る。そう私は認識いたしました。

市民の皆様の生活が明るい方向へ向かうよう、しっかりとかじを切っていただきたいと思います。

これを私の賛成討論とさせていただきます。

○宍戸議長 次に、本案に対する反対討論の発言を許します。  
(討論なし)

○宍戸議長 反対討論なしと認めます。  
次に、本案に対する賛成討論の発言を許します。  
15番 石飛議員。

○石飛副議長 私は、この選任同意の議案について、賛成の立場で述べさせていただきます。

まず、この副市長案件が提案なされた1つの目的は、新しいまちづくりのために構造改革、変革を求めてということだったと思います。これは、石丸市長が選挙で、たくさんの、8,000票以上の票を取った、市民の意見、取り入れたものだったと思います。今の時代、改革が必要だ、新しいものを求めようという、今、市民の気持ちは十分拾って、副市長の案件を提案されたんだと思います。

今までも当然、市執行部、十分に毎年事業をローリングして、少しずつですが、改めていいほうに進めてきたつもりです。ですが、少しずつの改革では間に合わない、薬では効かない状況だと、特効薬があれば既に効いているけど、なかなか特効薬が効かない状況、大手術をしようと、改革を求めている市民の声が聞こえてくるような気がいたします。

私も一般質問の中で、外部監査の登用とか、人材を、石丸市長の周りには優秀な人材がいるでしょうと問いかけたのが、9月定例会だったですかね、そんな問いかけもいたしました。そういう意味では、実際に実行に移される、市長の実行力にある程度敬服はいたしておりますが、そ

のやり方、いささか疑問も持ちつつ、選任同意に対しては賛成を示すところではありますが、最終人選をされた米村副市長の答弁にも、人選をされた四登さん、人の上に立っても十分にやっつけられる人材だということであれば、全く市の職員と今まで友好関係がなくても、十分に新しい体制を構築して、事業を推進される方だろうと。副市長の言葉を信じて、賛成とさせていただきます。

○宍戸議長 次に、反対討論がありませんので、本案に対する賛成討論の発言を許します。

(討論なし)

○宍戸議長 賛成討論なしと認めます。

これをもって、討論を終結いたします。

これより、同意第1号「安芸高田市副市長の選任の同意について」の件を、起立により採決いたします。

本案は原案のとおり決することに賛成の諸君の起立を求めます。

○宍戸議長 採決ボタンの確認をしておりますので、しばらくそのままお待ちください。

[起立少数]

○宍戸議長 起立少数であります。

よって、本案は否決されました。

御着席ください。

~~~~~○~~~~~

日程第3 議案第28号 令和2年度安芸高田市一般会計補正予算(第12号)

○宍戸議長 日程第3、議案第28号「令和2年度安芸高田市一般会計補正予算(第12号)」の件を議題といたします。

議案の朗読を省略し、提出者から提案理由の説明を求めます。

石丸市長。

○石丸市長 議案第28号について、提案理由を説明します。

本案は、既定の歳入歳出予算の総額に、それぞれ、333万3,000円を追加し、予算の総額を237億8,601万7,000円とするものです。御審議のほどよろしく願いいたします。

○宍戸議長 これをもって提案理由の説明を終わります。

これより質疑に入ります。

質疑はありませんか。

(質疑なし)

○宍戸議長 質疑なしと認めます。

これをもって質疑を終結いたします。

本案につきましては、予算決算常任委員会に付託して審査することにいたします。

~~~~~○~~~~~

日程第4 議案第29号 令和3年度安芸高田市一般会計補正予算(第1号)

○宍戸議長 日程第4、議案第29号「令和3年度安芸高田市一般会計補正予算(第1



号) 」の件を議題といたします。

議案の朗読を省略し、提出者から提案理由の説明を求めます。

石丸市長。

○石丸市長 議案第29号について、提案理由を説明します。

本案は、既定の歳入歳出予算の総額に、それぞれ、6,186万円を追加し、予算の総額を192億8,186万円とするものです。御審議のほどよろしくお願いいたします。

○宍戸議長 これをもって提案理由の説明を終わります。

これより質疑に入ります。

質疑はありませんか。

(質疑なし)

○宍戸議長 質疑なしと認めます。

これをもって質疑を終結いたします。

本案につきましては、予算決算常任委員会に付託して審査することいたします。

○宍戸議長 以上で、本日の日程は全て終了いたしました。

本日はこれにて散会いたします。

次回は、3月17日午前10時に再開いたします。

お疲れさまでした。

~~~~~○~~~~~

午前11時41分 散会

地方自治法第123条第2項の規定によりここに署名する。

安芸高田市議会議長

安芸高田市議会議員

安芸高田市議会議員